

成田国際空港離着陸便の混雑防止策導入について

① 北風時の鹿島灘方面からの着陸便の飛行高度変更【飛行コース図はこちら】

千葉県上空の飛行高度は、離着陸を除き、6千フィート（約1,830^m）以上確保することが原則です。そのため今までは、北風時に鹿島灘方面から飛来し、空港南側から着陸する便については、陸域を6千フィート以上の高度を保って飛行し、九十九里沖を大きく回りながら高度を下げ着陸体制に入る運用をしていました。

しかし、こうした運用では洋上を旋回する距離が長いことから近年の交通量の増加に伴って、混雑時には空中待機や迂回が発生しており、着陸が遅れるなどの問題が生じています。

そこで、混雑等によって航空管制上真に必要な場合に限り、鹿島灘から陸域に入った時点で徐々に高度を下げ、陸域を抜けるまでに6千フィート以下（5千フィート～4千フィート）とすることにより、効率的な運用を図ることになりました。

なお、変更される航空機は、現在のダイヤを前提にすると、到着機が混雑する時間帯（概ね13時台～18時台）に、60機着陸している航空機のうちの半数程度と想定されています。

② 南風時の九十九里方面への離陸便の飛行コース変更【飛行コース図はこちら】

成田国際空港に離着陸する航空機の飛行コースは、九十九里から利根川までの間は直進上昇、直進降下をすることが原則です。そのため今までは、南風時に九十九里方面に離陸する便については、陸域を抜けた後に左右に旋回する運用をしていました。

しかし、直進上昇する飛行経路が長いことから、近年の交通量

の増加に伴って、混雑時に航空機の安全間隔を確保するために離陸便の迂回や地上待機が発生しており、離陸が遅れるなどの問題が生じています。

そこで、南風時に九十九里方面に離陸する航空機を、混雑等によって航空管制上真に必要な場合に限り、高度6千フィート到達後、かつ騒防法1種区域の外側に達した場合は、九十九里海岸に達する前に左右に旋回させることにより、効率的な運用を図ることになりました。

なお、変更される航空機は、現在のダイヤを前提にすると、離陸機が混雑する時間帯（概ね9時台～12時台と17時台～19時台）に、1時間に30機離陸している航空機のうちの半数程度と想定されています。